

新たなスポーツ文化発信の場、 いわて盛岡ボールパーク (きたぎんボールパーク)



盛岡市営野球場と岩手県営野球場の後継施設「いわて盛岡ボールパーク（きたぎんボールパーク）」。屋内練習場やイベント広場なども設置され、多目的ボールパークとしても注目を集めています。今回は同施設の運営者を訪ね、きたぎんボールパークがどのような施設なのか、オープンしてからの様子、今後のスケジュールや事業展開などについて伺いました。

プロ野球一軍公式試合が開催できる高規格な球場を持つ「きたぎんボールパーク」

都市公園を活用した 次世代型スポーツ施設

盛岡南公園にオープンした「いわて盛岡ボールパーク（きたぎんボールパーク）」。春らしい晴天となった2023年4月1日、およそ1万8000人の来場者が新施設の記念すべき日を祝いました。オープニングセレモニーに続き、始球式では新球場アドバイザーで元読売ジャイアンツ投手の堀内恒夫さんが投球。見事なストライクボールに会場が沸き立ちました。

同施設は老朽化した岩手県営野球場と盛岡市営野球場に代わる球場を含む総合スポーツ施設であり、岩手県と盛岡市が2021年から整備を進めてきました。総事業費は108億円。メインとなる野球場は、岩手県初の人工芝、収容人数およそ2万人のグラウンドを備え、全面LEDパネルの大型スコアボードによって



鮮やかな人工芝を貼った屋内ブルペンは、1レーンずつ最大3団体が利用可能。

ト広場があり、さくらストリートや多目的広場など充実した公園として整備されています。

2万人近くが集った オープニングイベント

4月1日から同施設場長に着任した佐藤学さん（盛岡南ボールパーク株式会社）は、オープニングイベントの光景を目の当たりにし、今後の活用に大きな期待を感じたと話します。

「本施設は盛岡南公園の中にあるボールパーク。公園ですから、一部区域をのぞき誰もが入ってこられるオープンな設計になっているのが特徴です。それを踏まえ、オープニングイベントは今後の活用提案を兼ねた企画を実施しました。その一つが

野球大会終了後に行ったグラウンド解放。普段は足を踏み入れることができないため、多数お集まりいただ



いわて盛岡ボールパークパーク施設長の佐藤学さん。自身も関東出身、ボールパークをきっかけに盛岡の良さを体感してもらいたいと話します。

き、レフト側から駐車場まで待機の列ができました。新しい人工芝の感触を皆さん楽しんでくれたようです。また、野球場は車椅子席を100席設けていますが、障がいを持つ方だけでなく、高齢の方が子ども世代と一緒に車椅子席を利用されたケースが多く見られました。皆さん、昔から野球に親しんだ世代。車椅子席があるなら現地で観戦したい！という方々の思いを感じました。」

オープニングイベントでは、地元のおさんさ踊りや山車によるお出迎え、記念の野球試合、野球教室、アカペラやJAZZなどの音楽イベント、飲食のブース出店、フリーマーケットなど、幅広い世代が思い思いの形で楽しむ様子を見て、佐藤さん自身も感極まったと振り返ります。

県民の夢が詰まった はじまりの場

同施設における建物の特徴は、ゲートや建物のシンボリックな場所に県産材や盛岡市産材がふんだんに使われていること。中でも、球場全体を見渡す中央出入口の木製アーチには盛岡産スギ材が使われ、圧巻の佇まいです。座席は、県の花「キリ」、盛岡市の花「カキツバタ」、旧都南村の花「アヤマメ」の紫色を基調に、盛岡の伝統工芸品・南部紫根染めを



コンセプトテーマである「FLY TO THE FUTURE（未来へ羽ばたけ!）」を刻んだメインゲート。

イメージする紺色も交えた落ち着いたテイーンで統一。格調高い雰囲気を感じ出しています。

また、県内野球の歴史を振り返る展示エリアには、プロ野球界のレジェンドをはじめ岩手出身プロ野球選手たちの、メッセージやサインユニフォームなどが所狭しと並んでおり、未来への夢を感じるスポットになっています。

野球観戦という明確な目的だけでなく、ふらりと立ち寄ることにさまざまな催しに出合える、そんな日常の賑わいが期待される同施設。すでに、今年秋まで大会予定が決まっており、8月1日からは県内外と交流



2022年8月には県内の小中学野球少年による「魂のボール入れ」企画を開催。それぞれの思いを書き記したボールがマウンドに納められています。

試合の進行をリアルに把握、迫力ある映像を共有できます。1塁3塁各サイドには3レーンの屋内ブルペン、トレーニング室、各控室などがあり、観客だけでなく競技者や運営管理者全てが機能的に活用できる高規格の施設です。5月16日にはオープン後のナイター試合「楽天イーグルス vs 福岡ソフトバンク」戦が開催され、多くの人で賑わいました。

また、野球場だけでなく多目的に利用できる施設も多数併設。人工芝を使った屋内練習場はフットサルコート2面対応、ランニングやウォーキングのコース、最新マシンを用意したトレーニングルーム、ネット遊具など、幅広い世代が活用できます。屋外にはキッズスタジアム、イベン

を深める大会「いわて盛岡サマーベ이스ボールリーグ」が計画されています。これは東北を中心に、首都圏大学や社会人野球チームの合宿を兼ねた交流戦。さんさシーズンに重ねることで、盛岡を含む岩手の魅力も堪能してもらいたいと考えです。